

高槻名誉市民の高碓達之助翁を勉強する中で、翁が大きな理想を掲げ、日本のため郷土のために邁進する姿を学びました。そしてその裏にある人間性なり、涙の物語に感動しました。このように先人の偉業・業績の歴史に触れたとき、我々には到底そのようなまねはできないが彼らの行動・信念を学ばせて頂き、郷土の偉人に誇りを持ち、その中で我々自身が感じたことを語ることはできると深く思いました。自分が感じた先人の思いを伝えるために……。 (馬淵)



高槻市マスコットキャラクター『はにたん』

■読者からの投稿

会報 25号の前段でビスマルクの愚者・賢者の表現を書きましたが、高碓翁を誇りに思っただけの方から投稿がありました。

「ビスマルクの愚者・賢者の表現とは違った角度ですが、高碓翁の生前の座右の銘は『守愚』でした。『守愚』とは知を秘して愚者のごとく振舞うこと、名をして実に過ぎしむなかれ。愚を守るは聖の読みするところなり」、との文面でした。

これは、小林一三さんからの教えらしく、「この世の中には四種類の間がある。一番ダメなのは、利口そうに見えるバカ。一番偉いやつは、利口でバカをよそおってる奴だ。馬鹿に見えるが、それのできる利口な奴が、一番偉い。経営者はそれができ、その場合は、愚を守って実行に移さなければならないことだ。また、愚を守ると言う事を、別の言葉で言えば、無償の情熱、無償の奉仕とも表現できる」と述べられています。

■岡崎嘉平太から高碓達之助を見る。

岡崎は日中交流に尽力した実業家で、1962年中国に対し高碓団長について副団長としてLT貿易と呼ばれる協定を結んだ。この協定は岡崎が作成したものであり、その後は、日中覚書貿易事務所代表として日中国交正常化に尽力した。

岡崎の高碓評価としては「高碓さんは常に“天衣無縫”(人柄が飾り気がなく、純真で無邪気なさま)で、非常におおらかで、そして物の見方が、極めて大きいということ。常に大きな目標をもって、その中で可能なものから、解決していくという人でした。言ったことは必ず実行する人でした。」と述べられています。

岡崎は賀陽町名誉町民、総社市名誉市民、岡山県名誉県民に認証され、記念館は岡山市にある。中国との国交回復や交流促進に果たした功績を紹介されている。高槻に高碓翁の記念館がないのは誠に残念である。



■6月18日(土)甲南大学の胡

金定教授の「日中友好と高碓達之助」と題して講演が行われます(17:00 高槻現代劇場)

胡教授は昨年エッセイ集「日本と中国の絆」を出版され、内容は、中国の周恩来首相から日中国交正常化の「井戸を掘った人」とたたえられたLT貿易協定で知られ、高槻名誉市民でもある高碓達之助翁の講演です。

厳しい時期だからこそ、戦後の関係修復に力を注いだ人に学ぶ必要があるのでは……と。



■6月の学習計画

- 6/10: テレビ (テレビ大阪) 東洋食品工業短大紹介
- 6/13: 勉強会 (高槻文化会館) 「高碓達之助の生き様」
- 6/18: 講演会 (高槻現代劇場) 「日中友好と高碓達之助」
- 6/27: 勉強会 ((高槻文化会館) 講師北村先生 (前茨木高校教師) による、『高碓翁と桜』

会員募集

年会費
¥ 2,000

高槻名誉
市民を語り
継ぐ会